

サンタさんの絵はがき

- スキーOマスターズの話 -

ゆき「じいじい、スキーOのマスターズ大会の成績、ぼくインターネットで見たよ」

爺爺「フィンランドの人たちは強くて、爺爺が目標にしてた 20 位になれなかったよ」

ゆき「最初のレースはさ、23 位だったから、ぼく達じいじい頑張れて、みんなで次のレースを応援してたんだよ」

爺爺「そうか、ありがとう。爺爺も頑張ったんだけど、2 レース目は 30 位だったね」

ゆき「じいじいも速いと思うけど、フィンランドのお爺さんたちは凄く早いんだね。」

爺爺「ゆき、サンタの絵はがき着きましたか」

ゆき「着いたよ。サンタさんが大きなトナカイが引いてるそりに乗って、プレゼントの袋も積んでたね」

爺爺「フィンランドには、サンタクロース村があって、博物館にはサンタさんが何人も、いつでも居るんだよ。そして、クリスマスには世界中の良い子達にプレゼントを配るんだよ」

ゆき「ぼく、サンタのことよく分からないけど、その話は綺羅(きら)と来希(らいき)に聞かせたほうがいいよ」

爺爺「来年の世界選手権はフィンランドのレヴィだから、若し爺爺も行けたらサンタ村の話をしてやるうね」

ゆき「フィンランドは寒いんでしょう。子供たちもスキーオリエンテリングしてるの？」

爺爺「子供たちがスキーオリエンテリングしているのは見なかったけど、夜の開会式のとき、寒い中元気にたいまつ松明を持ってスキー滑ってくれたよ。それから、応援に来る人が-20 度の外に赤ちゃんを乳母車に載せて連れてくるんだ。さすがの爺爺もビックリしたぜ」

ゆき「小さい時から寒さに強くなるわけだ」



爺爺「今回も、マスターズの外にジュニア選手権やヨーロッパユース選手権も同じ会場だったから、幸が中学生になって、爺爺も元気だったら一緒に参加できるかもしれないね」

ゆき「ぼく、スーパースケーティング上手くなって内山さんより速くなりたいな」

爺爺「幸もスケーティングの格好は出来てきたが、クロカンスキーの基本中の基本であるダブルポールの練習しなくちゃね」

ゆき「はい」

スキーOと2時間トライアル

- 1月31日(土)・2月1日(日)

福島県磐梯高原休暇村の話 -

ゆき「じいじい、小学生がたくさん来てたけど、みんなスキーオリエンテリングに参加しなかったね」

爺爺「スキーOの参加者は小学生は幸一人。中学生クラスも町井瑞希君一人だけか」

ゆき「こんなに面白いのに、出るといいのになー」

爺爺「親や先生が知らないから、子供だけでは参加できないんだよ。瑞希君も、お父さんと一緒にクロカンスキーは 12 月から始めたのに上手くなったね。2 時間トライアルも 15.5km だったし」

ゆき「2 時間トライアル、ぼく 17.4km だったよ。タベ爺爺がワクシングしてくれたからいつもより滑ったけど 20km 目標だったから残念だな」

爺爺「そうだね、やっぱりノンスリップの板じゃ、いくらワクシングしても滑りがよくないんだ」

ゆき「じいじい、小学生クラスの 1 位と 2 位の新藤君はぼくと同じ愛宕小だよ」

爺爺「え！、小学生で 33.4km も滑った怪童の双子は米沢なんだ。6 年生か？」

ゆき「うん、兄弟でスキークラブの選手だよ。爺爺、ぼく爺爺の弟なんだからもっとスキー教えてよ」

爺爺「冬は爺爺忙しくて、幸達に悪いと思ってるよ。よし、罪滅ぼしと爺爺が 60 歳クラス優勝を記念して新しい板を買ってあげるよ。そして、基本のクラシカルをびっしり仕込んでやるか」

ゆき「うん、ぼく米沢市の小学生合宿に希望するんだけど、先生が選んでくれるかな？」

爺爺「先生は何時選ぶの？」

ゆき「19 日の学校のクロカンスキー大会のあとだよ」

爺爺「そうか、爺爺も万難を排して応援に行くから頑張れよ！」

ゆき「うん、ぼく頑張るぞ！」

- 鉄は熱い内に叩けー (格言)